

愛知県震度観測・調査報告書－第33報－の概要

1 調査の概要と目的

この調査は、地震動の伝わり方や地域特性を明らかにするため、県内全市町村に設置している計測震度計による震度情報ネットワークの震度観測データ等を活用して、平成25年1月～12月に発生した地震と震度に関する情報をまとめるもので、防災対策の基礎資料、県民の地震に対する理解を深めるために活用されることを目的として報告書を作成している。昭和56年より1冊／年で発行しており、本書で33冊目となる。トピックスとして、「過去の地震から将来発生する地震を想定する」ことについての考察及び「津波地震」についての解説を掲載した。

2 愛知県震度観測・調査報告書－第33報－の概要

(1) トピックス

ア 過去の地震から将来発生する地震を想定する

南海トラフで発生した過去の地震についての解説や過去の地震を用いた想定の限界についての考察を行い、地震防災対策への利用等について述べている。

イ 津波地震

地震の規模の割に津波が大きい「津波地震」について、過去の津波地震の話や発生メカニズムの解説を行い、体感する揺れが弱くても、地震を感じたら避難行動を取ることの必要性を説いている。

(2) 震度観測資料

ア 愛知県における地震

平成25年に、県内のいずれかの市町村で震度1以上が観測された地震の発生は24回であり、震度4以上が観測された地震の発生は1回であった。

イ 国内の主要な地震

平成25年に、国内で、被害を伴った地震の発生は11回であった。

ウ 世界の地震

平成25年に、世界で人的被害を伴った地震の発生は37回であり、死者50名以上の地震の発生は4回あった。

3 調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県民が自由に閲覧できるように公立図書館、県民生活プラザ等に配付し、地震についての理解を深めてもらう。